

三河

情報をお寄せ下さい

社会グループ
052-211-1151
FAX052-211-1085
Eメール chubu
@yomiuri.com写真
052-211-1023豊橋支局
0532-53-0717
FAX0532-53-0688
岡崎支局
FAX0564-53-5343
FAX0564-53-5315
豊田支局
FAX0565-34-1311
FAX0565-33-5876
中部空港支局
FAX0569-38-1150
FAX0569-38-1151
通信部

一宮 0586-43-7901

小牧春日井 0568-78-6370

瀬戸 0561-84-9138

半田 0569-22-8222

西尾 0563-52-0390

読者相談 052-211-1009

社内見学申し込み 052-211-0059

販売部 052-211-0037

購読申し込み
フリーダイヤル
0120-4343-81折り込み申し込み
052-461-1251広告申し込み
052-204-1361

上野天満宮

学問守護・厄除招福・交通安全
名古屋天神
名古屋市中千種区赤坂町4-189
TEL 052-711-6660 FAX 052-711-6661

花菜の絵本できたよ

浜名湖ボート事故

両親思い出つづる

浜名湖(浜松市)で2010年に起きたボート事故で亡くなった豊橋市立章南中1年、西野花菜さん(当時12歳)の両親が、娘の思い出をつづった文章にイラストを添えた絵本「夢があるっていい。」を出版した。



完成した絵本を手にする友章さん

母親の光美さんが文章を書き、父親の友章さんはパソコンでレイアウトにあたった。光美さんは「事故の後、原因究明や再発防止に明け暮れてきたが、やっと娘と私たちだけのことを考えられるようになった。花菜が喜ぶ本ができた」と笑顔で浮かべた。

絵本を作る計画は、娘との思い出を形にしたいと考えていた両親と画家の久保田裕美さん(刈谷市)が昨年暮れに出会って動き始めた。何度も打ち合わせ、7月中頃によろやく完成した。各ページには、花菜さんがかわいがっていた白い文鳥がどこかに隠れている。

絵本は難病で足が不自由な光美さんの通院や入

院を小学生の花菜さんが懸命に支えた思い出から始まる。

「お父さんもお母さんも

花菜ちゃんの明るい優しさにつつまれていました」という家庭は事故で一変。花菜ちゃんはもう、大好きなお家には帰って来ません。中学からは花菜ちゃんの水色のカバンだけが帰ってきました」と書かれ、カバンには事故の前夜、花菜さんが書いた野外学習のしおりが入っていた。

「将来の夢」と題された文章には「私がなりたいのは医者です」とあり、「いろんな人のけがや病気をなおして笑顔にしたいから」と、母を思いやる決意がつづられていた。「けなげな気持ちに涙がこぼれました」と光美さん。友章さんは「子どもが亡くなると、夢も消えてしまう。悲しい事故を二度と起こしてほし

くないという親の思いを伝えたい」と話す。タイトルも、しおりの言葉から取った。

絵本は全カラー24ページ。100部を自費出版し、両親の知り合いに配るほか、関心のある人が読めるよう、豊橋市教委を通じて図書館などに置いてもらえるよう依頼するという。

福井さんは田原市の生まれで、今年3月に結婚し、夫の勧めで応募した。新居のある三河地区の自然と人の優しさが好きという。地元の良いことを市内外にPRしたい」と抱負を語った。

町さんは母の勧めで応募

工科高「専攻科」民間

県検討 16年開校、近

県は22日、2016年に開校予定の愛知総合工科高校(名古屋市中千種区)の「専攻科」の運営を民間事業者

に委ねることを検討すると発表した。ただ、公立学校の運営の民間委託は現在、法的に認められておらず、国家戦略特区の指定を受け

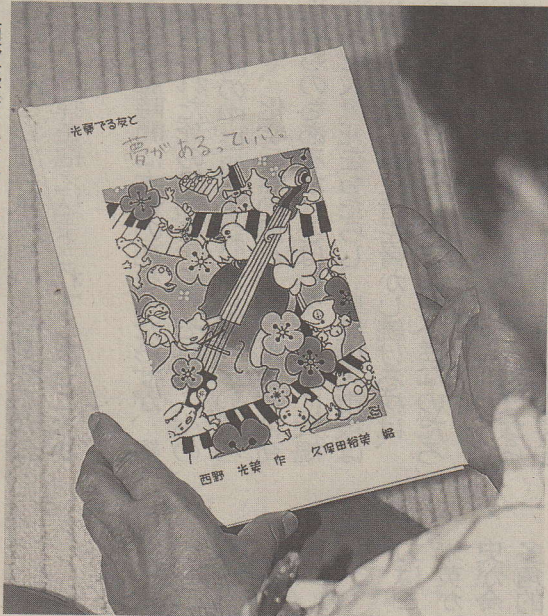
「夢があるっていい」

浜名湖・ボート事故遺族が絵本

県立三ヶ日青年の家（浜松市北区）のボートが浜名湖で転覆した事故で、愛知県豊橋市の西野花菜さん（当時12）を亡くした両親が、花菜さんが亡くなる前日に書き残した言葉「夢があるっていい」をタイトルにして絵本を制作した。「娘が喜ぶ本をつくりたかった」と母光美さん。8月に入り、事故の再発防止に取り組む協力者に「夢に向かって進んでほしい」との願いを込めて寄贈している。

絵本のストーリーは光美さんが考えた。難病を患い、足が不自由な「お母さん」

を明るく支えていた「花菜ちゃん」のボートが嵐で、海に沈んでしまう。残された水色のカバンを勇気を出して開けてみると、事故前日に書かれた絵や「医者になりたい」という夢が見つかる。



西野花菜さんが亡くなる前日に書き記した言葉「夢があるっていい」をタイトルにした絵本を手にする父友章さん

亡き娘の思い タイトルに

きれいな絵本にしたかった」（光美さん）。

事故が起きた2010年6月以降、母光美さんと父友章さんは、事故原因解明などを関係機関に働き掛け、再発防止に力を注いできた。取り組みがようやく落ち着き始めた昨年12月から絵本制作に取り掛かったという。

光美さんは、1級建築士の資格を持つが難病で復職を断念した過去がある。絵本の細かいデザインに気を配ったことを振り返り「設計事務所では図面を描いていた頃を思い出した」とほほ笑む。友章さんは「妻が一生懸命になっていた姿を見てうれしかった。夢を持つ人にうらやましさを感じる。だからこそ、夢を持つ人には頑張ってもらいたい」と話した。